

開催された風間浦中学校の歓迎式では、同士社中約九〇〇人の前で富岡優斗くんがお礼のあいさつを述べたの続き、風中生徒全員が元氣よく合唱を二曲披露しました。その後、扇谷亮くんと根戸内利輝くんが同社中生と友好の証である記念品を交換して更なる絆を深めました。

この後、同志社中生徒の案内で学校内を見学して同志社中学園祭三日目の行事である輝舞祭と後夜祭に参加しての交流となりました。

輝舞祭では熱い日差しの中、「もっと仲良くなって下さい」をスローガンに曲・構成・ダンスを自分たちで創り上げていくもので、風間浦中は富岡七海さんのあいさつ後、自分たちで練習してきた「よさこいソーラン」を披露し、その素晴らしいパフォーマンスに会場からは拍手喝さいをいただきました。

夕方になり、薄暗くなったところ同志社中グラウンド中央にあるキャンプファイヤーが点火され、後夜祭のダンスが始まりました。生徒たちは同志社中生と一緒



輝 舞 祭

フォークダンスを踊ったり、花火大会を見たりと楽しい時間を過ごしました。

一八六六年三月、激動・激変の幕末に薩摩藩邸内では坂本竜馬が仲介し西郷隆盛と桂小五郎が薩長同盟を締結してその後倒幕・明治維新へと結びついていきました。

薩長同盟が締結された旧薩摩藩邸跡地には、風間浦中二年生が体験入学・交流した同志社大学今出川キャンパスがある。

生徒たちは、その歴史の重さを肌で感じ、また、新島襄の教育にかけた宿志と、そこで学ぶ同志社中生徒との交流で貴重な体験とかけがえない思い出を創り上げました。



よさこいソーラン

「同志社中交流会を振り返って」

富岡 優斗

今回の同志社中交流会は、ハッキリ言うところでは、とてもやりたくありませんでした。しかし一日目、二日目とたくさん楽しみいろいろな経験をしていくうちに、だんだん盛り上がり上がってきました。そして、メイソンの三日目。その日、僕はすごい緊張をしていました。なぜなら、風中の代表として、大勢の同志社中学生の前であいさつをしなければならなかったからです。あいさつをしている時、手が震えていました。ですが、

「同志社中交流を通じて」

富岡 七海

十月一日から四日までの四日間、私達は京都に行った。行きは、飛行機で、帰りは、新幹線で行った。四日間の中で一番感動した日は、三日目の同志社中との交流だ。校内に入ったとたん、凄いなと思った。ここ本場に中学校なのというくらい広がった。歓迎会で同志社中生に、合唱を披露する時は、思いつき声を出した。そしたら、始めはざわついてきた生徒がみんな合唱を聞いてくれて、たくさん拍手ももらった。輝舞祭では、トップバッターが風中のソーランだった。タワーも失敗する事なく、成功できた。声も合唱の

きちんと役割を果たし無事あいさつを終えました。その後の合唱もソーランも百パーセントの力を出し切れてよかったと思います。後夜祭では、フォークダンスや、シエイクも踊り、交流会が始まる前とは、まったく違う自分が表に出ていました。本当は、まだ同志社中学校にいたかったので、さすが、本当に楽しくてよい三日間だったと思います。今回同志社中学校との交流会を実現してくれた教育委員会の方々、お世話して下さいました。添乗員の羽田さん、それと先生方に感謝します。

時より出た。踊っている最中は、いろんな事を考えていた。今まで苦労して練習してきた事が頭をよぎって踊っているんだなあと思うと、鳥肌も立った。多分、今までで、一番良かったソーランだから、感動して、鳥肌が立ったんだなあと思う。

今回の同志社中交流では、ここには書ききれないほどたくさん学び経験ができた。同志社中には、私達の学校にない、いいものがたくさんあり、とても参考になった。自分達で企画、運営をする。本当に、同志社中はいいい学校だなあと思う。

私達の体育祭や文化祭、同志社中の生徒に自慢できるようなものになりたい、と強く思った。